現状と課題

＜移 行 支 援 ＞これまでの移行支援では、本人の情報の引き継ぎのみになってしまい、その後、本校の「個別移行支援計画」が活用がされていない。
学校・進路先・関係機関・本人や家族と長期目標が共有できておらず、フォローアップに向けた役割分担が明確でない。
＜フォローアップ＞卒業生が継続して働いたり、安心して生活を送り続けるため、学校と関係機関が連携したフォローアップシステムが必要である。

目　的

移行支援及フォローアップ体制を可視化するとともに、学校と関係機関が連携した移行支援及びフォローアップ体制を構築する。

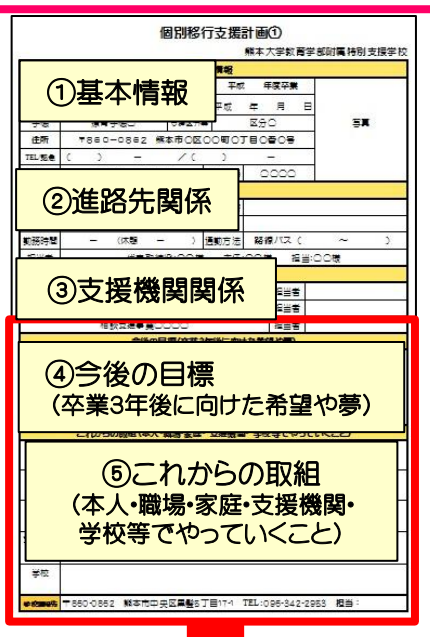
卒業後の移行支援の充実

※福祉サービス利用者は、「サービス等利用計画案作成」や「サービス担当者会議」との連携を図る

進路決定から就労までのプロセス

10月以降	11月～1月下旬	2月中旬～下旬	3月上旬～中旬	3月下旬～4月

- 現場実習をとおして進路の方向性が決定
- 福祉サービス利用：市町村への福祉サービス利用申請
- 一般就労：求人票受理・応募書類の提出（※A型利用の場合も含む）
- 相談支援事業所での「サービス等利用計画案」の作成（※担任及び進路担当の参加 ※「個別の教育支援計画」の反映）
- 採用決定（※A型利用の場合も含む）
- サービスの支給決定
- 必要に応じて就労前実習（※ジョブコーチ利用の場合は職業評価）
- 個別進路相談会（校内）（※事前の保護者アンケート実施 ※「移行支援シート」の作成）
  - ナカポツ、職業センターのカウンセラー・ジョブコーチ、相談支援事業所の参加
- 移行支援ミーティング
  - ○「移行支援シート」による引き継ぎ
  - ○サービス担当者会議（「サービス等利用計画」の確認）
  - ○事業所との利用契約
  - ○「移行支援シート」による引き継ぎ
  - ○企業との雇用契約
- 「個別移行支援計画」の完成（※移行支援ミーティングの内容と「移行支援シート」 ※卒業後のフォローアップ計画）
- サービス利用開始
- 就職



移行支援ミーティング（支援者ミーティングの手法を用いた移行支援）

関係者が進路先（職場）に集まり、これまでの本人に状況と支援のポイントについて情報共有を行う（移行支援シートを活用）。

今後の目標（3年後の目標）及び支援機関の役割分担を話し合う。

個別移行支援計画（ 移行支援ミーティングの内容 ＋ 移行支援シート）

卒業後のフォローアップの明確化

h. 28	定期フォローアップ	夏季フォローアップ	通常フォローアップ	同窓会活動
4月			平成27年度卒業生フォローアップ	
5月			平成26年度卒業生フォローアップ	運動会
6月			平成25年以前の卒業生フォローアップ	総会
7月		（職員研修）		
8月		過去３年間の卒業生全員を対象		
9月	卒業後６年目を対象としたフォローアップミーティングの実施			
10月	卒業後３年目を対象としたフォローアップミーティングの実施			1日バス旅行
11月	卒業後10年目を対象としたフォローアップミーティングの実施			すずかけ祭り
12月				
1月				新年会
2月	卒業予定者　移行支援ミーティング		随時	
3月				

4つの「フォローアップ」

①定期フォローアップ（フォローアップミーティングの実施）
卒業後3年目、6年目、10年目を対象に、進路先に関係者が集まり、「フォローアップミーティング」を実施。これまでの目標の振り返りと新たな目標（3年後）や関係者の役割分担を確認する。

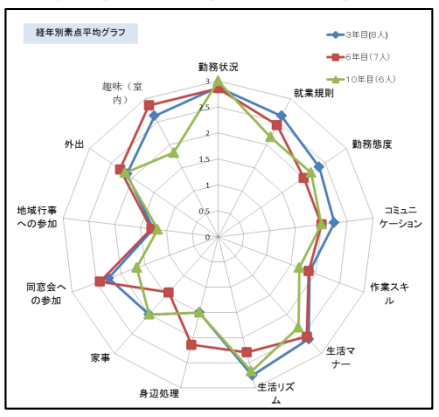
②夏季フォローアップ
夏季休業中を利用して、全校職員で過去3年間進路先を訪問する。職員研修を兼ねて実施。

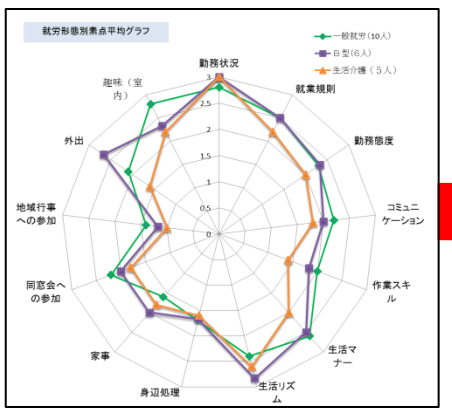
③通常フォローアップ
状況に応じて、進路先を訪問し、関係機関と連携して、定着支援を行う。特に、卒業3年間は重点的に実施。また、進路先の職場環境や家庭環境が変化した場合は、タイムリーに対応する。

④同窓会活動（すずかけの会）によるフォローアップ
「総会」「1日バス旅行」「新年会」の開催や「運動会」「すずかけ祭り」の学校行事への参加を呼びかけ、来校型のフォローアップを行う（就労相談窓口の開設）

フォローアップミーティング（3年目、6年目、10年目）の結果

経年別素点平均	3年目	6年目	10年目
3段階評価	(8人)	(7人)	(5人)
勤務状況	2.88	2.86	3.00
就業規則	2.63	2.43	2.17
勤務態度	2.36	2.00	2.17
コミュニケーション	2.25	2.00	2.00
作業スキル	1.88	1.86	1.67
生活マナー	2.63	2.57	2.33
生活リズム	2.75	2.29	2.67
身辺処理	1.50	2.14	1.50
家事	2.00	1.43	2.00
同窓会への参加	2.25	2.43	1.67
地域行事への参加	1.25	1.29	1.17
外出	2.13	2.29	2.17
趣味（室内）	2.63	2.86	1.83





卒業後3年目、6年目、10年目の傾向

【3年目】○業務に慣れてきたが、職場や事業所の要求水準が上がり、スキルの向上が必要。
○身の回りのことは、家族への依存度が高い。
【6年目】○業務は比較的に安定してきているが、マンネリ化によるステップアップが必要。
○生活の乱れ（食生活や金銭）あり。
【10年目】○支援機関と繋がっている場合は、安定している。
○今後の生活について保護者が不安を感じている。

一般就労と福祉的就労（生活介護を含む）の傾向

【一般就労】生活面（家事・生活マナー）の課題あり。
【福祉的就労】ステップアップや余暇活動に課題あり。
※どちらも「地域行事への参加」が低い。

【考察】

卒業前の移行支援の充実

○移行支援ミーティングを関係者が集まって行うことで，本人の夢や目標を応援するスタンスを共有でき，その後の関係者の役割分担（仕事面，生活面，心理面等）が明確になる。
○個別移行支援計画は，フォローアップで知り得た情報を支援機関担当者の変更等，随時更新していくことが必要。

卒業後のフォローアップの明確化

○進路先でのナチュラルサポートの形成を目標に卒業3年間は重点的に定着支援を実施。その後，支援機関と情報交換を密に図りながら，本人及び企業（事業所）をサポート。
○生活面（食生活や金銭等）や余暇面（地域活動への参加等）も学校で確実に育成することが必要。
○卒業後、本人支援だけでなく，引き続，家庭（保護者）への情報提供も必要。

【まとめ】～「卒業のない学校」として～

（1）生徒のライフキャリアを支援
障がいのある生徒の地域移行と働くことを含めた人生全体への支援の視点でのキャリア教育を展開する。

（2）学校の蓄積してきた情報を進路先や関係機関へ
これまで学校が蓄積してきた本人の情報を関係機関と共有し，地域で役割分担しながら定着支援を行う。

（3）本校の「育成を目指す資質能力」へのフィードバック
卒業10年後に「充実した豊かな生活」が送れていることを目標に，フォローアップで知り得た情報を学校教育に還元する。